

八、其ノ頃長崎県西彼杵郡茂木ノ梅木実ナル人カ私方へ来て居リマシタカ否ヤノ事モ幼少ノ時代ニ付覺エテハ居リマセヌ

右録取ス

大正八年十二月十日

於宇土警察分所

警部補 荒 木 茂 雄(印)

聴取書(一一)

熊本県宇土郡緑川村大字城塚八百四十七番地戸主
吉之助従弟平民農業

中山 忠 兵 衛

当二十八年五月廿五日生

右ハ本職ニ対シ任意左ノ供述ヲナシタリ

一、私ハ長崎県西彼杵郡茂木村ノ梅木実ナル人ハ親族雇人同居人后見人ノ関係ニアリマセヌ曾テ知ラサル人テ有リマス然レ共中山光雄ハ私ノ実弟テ有リマス

二、然ルニ大正二年一月頃移民取扱人中山憲道ナル人ノ取扱ニ依リ私ノ実兄新平ト実弟光雄及私ノ三人ハ伯国サンパウロ州在留ノ前田六次ノ呼寄ニヨリ伯国へ渡航スル様

熊本県ニ旅券下附ノ出願ヲ致シマシテ宇土警察分所ニ於テ夫々御手数數ヲ願ヒマシタコトハ相違ハアリマセヌ

三、勉カ私ハ其ノ当時ハ飯野郡錢塘村へ下男奉公致シテ居リマシタノテ主人ヨリ差止メラレマシタカラ渡航ヲ取リ止メマシタ又弟ノ光雄ハ其ノ折ヨリ病氣ニ(ルイレキ)罹リテ居リマシタ故是モ渡航セヌ様ニ成リマシタカラ兄ノ新平一人出發致シマシタ

四、前申シマシタ通り私ハ下男奉公中テ有リマシタノテ兄ノ出發ノ時モ郷里へハ帰ル事モ出来サル位ニ付梅木実ナル人カ自宅へ来てテ居リマシタカ否ノ事モ一切存シマセヌ其ノ事ハ兄ノ新平カ知ツテ居ルナラント考ヘマス

五、右申立テ中弟ノ光雄ト同伴シテ当所へ出願致シマシタ様ニ覺エマスケレ共確カニハ記憶シマセヌ

右録取ス

大正八年十二月十一日

於宇土警察分所

警部補 荒 木 茂 雄(印)

事項一三 「メキシコ」革命動乱関係一件

四一六 八月二十日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

大鳥駐墨公使帰朝ノ途次ホノルルニ於ケル新

聞記者トノ会見談ニ関スル件

政公信第一六〇号

(十一月二十日接受)

大正八年八月二十日

在墨臨時代理公使 伊 藤 敬 一(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

八月六日ノ当地各新聞紙ハ七月廿六日附「ホノルル」通信トシテ大鳥公使ガ新聞記者ニ与ヘタル会見談ヲ大略左ノ如キ意味ニテ掲載致候

駐墨日本公使大鳥富士太郎男爵ハ東京ヘノ帰途当市ニ於テ声言シ米国ハ墨西哥国内秩序回復ノ為「カランサ」大統領ニ対シ武器彈藥ヲ供給シ「ヴィヤ」其他ノ叛賊ヲ討伐セシメサル可カラスト云ヘリ

大鳥公使ハ又曰ク「カランサ」大統領ハ墨国ヲ渾沌タル状態ヨリ救出シ秩序ヲ回復スルニ十分ナル精力ヲ有スル

一三 「メキシコ」革命動乱関係一件 四一六

唯一ノ人物ニシテ米合衆国ノ援助ヲ値スル者ナリト

尚日本公使ハ附言シテ日本ガ墨国ニ対シテ有スル唯一ノ利害関係ハ兩國間ニ通商関係ヲ増進セシムルコトナリト云ヒシガ今其談話要領ヲ摘記センニ『「カランサ」大統領ハ既ニ「ヴィヤ」賊ヲ掃蕩シ得タレハ此際米国ガ墨国ニ

干渉スルコトハ其必要ナカル可ク又思慮アル行為ナリト信スル能ハス余ガ意見ニテハ「カランサ」大統領ハ墨国ヲ文明的ニ統治シ得ル唯一ノ人物ニシテ其為人沈着深慮且多年「ディアス」ノ下ニアリテ實際ノ政治ヲ学ビ經驗アル為政家タルト同時ニ熟練ナル外交家ナリ、サレハ米國ハ此人ニ武器彈藥ヲ供給シ以テ米國人ニ危害ヲ加ヘツツアル賊ヲ殲滅セシメサル可カラス蓋シ「カランサ」大統領ハ国内平定ニ十分ナル軍隊ヲ有スト雖常ニ欠乏ヲ訴フルモノハ武器ナレハナリ云々』又彼ノ頻々伝ヘラレタル日本ノ侵略説ニ関シテ同公使ハ曰ク「日本ハ墨国ニ対シ何等政治的企圖ヲ有セス而シテ今現ニ墨国ニ在住スル僅少ノ日本人ハ英、米、仏國等ノ資本家ト同一ノ形式ニ

四三一

於テ其資本ヲ輸入セルモノニテ悉ク商業上ノ活動ニ從ヘルモノ然レハ余ハ断言ス在墨日本実業家ハ墨国ノ自然富源ヲ開發スル為米国資本ト共同スルコトヲ大ニ歡迎スルモノナリ』ト

右通信ノ反響トシテ新聞紙上ニ表ハレタルハ八月七日ノ朝刊「エル、デモクラタ」紙ノ論説ニテ

大鳥富士太郎閣下ハ日ノ出帝國ヘノ帰途「ホノルル」ヲ通過セララル際墨国問題ニ関シ頗ル重要ナル声明ヲナサレタリ即チ同公使ノ談話ハ我國社会、政治上ノ問題ハ勿論我政治家ニ関スル大ナル了解ヲ意味スルモノニテ米国政治家ノ常ニ口ニスル如ク彼國ガ真ニ我國ニ組織的平和ヲ齎シ墨国ヲシテ真実自由ナル民主國タラシムルヲ欲スルナラハ其カ正ニ執ラサル可カラサル行為ノ標準ヲ最明確ニ指示スルモノナリ

日本公使ノ顯要ナル地位ハ自ラ其意見ニ權威ヲ附スルモノニテ實ニ刻下唯ノ國家問題ト称スヘキ課題ニ明答ヲ与フルモノナリ、同日本外交官ハ曰ク現在ニ於テ墨国ヲ統一シ得ル者ハ「カランサ」ヲ措イテ外ニ求ムル能ハスト而シテ斯ノ如キ証言ハ之ヲ彼ノ聲望器能ヲ欠キ又一定ノ

政綱ヲ有セサル我國叛徒ノ首領及大統領候補者トシテ認識セラレント欲シ居常大ニ自贊シ居ル国外退去者ヲ一瞥スル時直チニ其背紫ニ中レルヲ知ルヘシ

尚日本皇帝陛下ノ賢明ナル代表者ハ米國ガ常ニ熱望シ居ル墨國ノ平定ニ欠ク可カラサル銃器彈藥ヲ（之ノ無クテハ平定事業ハ不可能ナリ）彼國ヨリ供給スルコトノ正義ニ副ヒ且必須ナルヲ指摘セルガ斯ル意見ノ奥底ニハ近キ頃華盛頓政府ノ發シタル武器輸出ノ禁令ニ對スル非難ノ潛ムコト勿論ニシテ右ノ禁令ハ既ニ「ウィルソン」氏ニヨリ適法政府トシテ承認サレ而シテ其外務省トハ米國ガ親交關係ヲ維持シツツアリ而モ叛徒及似而非革命黨ニ對抗苦闘シ内外國人保護ノ重大ナル任務ヲ双肩ニ担ヘル一國政府ニ對スルモノトシテハ真ニ不可解ノモノナリ

今吾人ガ評論シツツアル言中ニテ其真実ノ意味ヲ了解スルニ慎重ナル判断ヲ要スル一事アリ即チ「カランサ」大統領ハ「ボルフィリオ、ディアス」ノ門下ナリト解セラルルモノ是レナリ、墨國ノ現大統領ハ彼ノ三十年余ニ亙ル独裁家ト同シク豊富ナル政治上ノ經驗ヲ有シ彼ノ如ク人情ヲ解シ能ク自ラヲ制シ一事ヲ決定スルニ方リテハ

非常ニ深慮ヲ費スト雖一度之ヲ聲言シタル時ハ決シテ中途挫折スルコトナク又剛毅堅実ノ性格ガ假令幾多ノ過失ヲ伴フトモ常ニ一種ノ尊敬ヲ感ゼシムル如ク彼モ亦カカル尊敬ヲ感セシムルコト四月二日ノ英雄（ディアス）ト同シ而シテ此類似点ヲ除ク時ハ兩大統領ノ差異顯著ナルモノアリ即「カランサ」ハ誠心誠意民主主義ヲ信シ不斷ノ反抗アルニ拘ラス其実行ノ為奮闘ス然ルニ「ディアス」ハ之ニ反シ法律ヲ以テ精神ノナキ一形式トナシ自家ノ野心ヲ隱蔽スル面紗ニ惡用セリ「カランサ」ハ又憲法ヲシテ生命アル事業タラシメントシ「ディアス」ハ之ヲ目シテ一ノ手帖トシ唯之ヲ尊敬スル如ク装ヒシニ過キス

「ツステペック」Tuxtepecノ革命家「ディアス」ハ疑モナク有能且天才の政治家ナリシガ「コアウィラ」Coahuilaノ革命統率者「カランサ」モ亦政治ノ策略ヲ了解セサルニ非スト雖寧ロ大ナル社会問題ヲ解決セント欲ス

最後ニ現大統領ハ出版ノ自由ヲ尊重シ人種統一ヲ望ミ組織的平和ヲ欲求シ敢テ伴ラサルニ反シ「ディアス」將軍ハ新聞紙ヲ拘束シ永年間西俗亞米利加ノ運命ニ関シ不関心ニテ彼ノ在任中（或ハ多少短ク）仮装の平和ノ続キシ

ヲ以テ満足シタリ之ヲ要スルニ上記日本外交家ノ私的意見ハ墨國ノ真相ヲ遺憾ナク説明セルモノナルモ其ハ偶然ノ陳述ニシテ恐ラクハ深く論評セサルカ適當ナル可シト雖其要点ハ令名高キ米國大統領力屢次声明セシ如ク誠心誠意墨國ノ平和回復及内外人ノ保護完全ナランヲ欲セバ彼國カ正ニ採ルヘキ態度ニ触レ居ルコト勿論ナリ

墨國ハ米國大使「フレッチャー」氏ニ對スルト同シク大鳥閣下ニ對シ其我國ニ對シテ為サレタル公正、信義及厚情ノ偉大ナル行為ニ感荷セサルヘカラス（「フレッチャー」大使ハ曩日米國上院ニ於テ「カランサ」ヲ除キ墨國ヲ統治シ得ルモノナシト陳述セルヲ以テ墨國議會ヨリ感謝ノ電報ヲ送リシコトアリ）而シテ大ナル教養アリ社会上ノ頭象ニ関シ觀察ノ明ヲ有スル高潔聰明ノ士ガ墨國ニ関スル斯ル重要ナル判断ニ於テ一致スルコトハ真ニ吾人ニ對スル慰安ト謂ハサル可カラス

ト陳ヘタルヲ最著シキモノト致候処右ハ準政府機關ト認メラレ居ルニ鑑ミ世人ハ「カランサ」ノ命シテ評論セシメタルニ非サルカト申居候外タ刊「Revolution」ハ政府反對ノ新聞ナルヲ以テ大鳥公使ノ会見談ハ正鵠ヲ失セリトテ不滿

ノ意ヲ洩ラシ候モ現政府並ニ大部分ノ市民ニ対シ非常ニ好感ヲ与ヘタル如ク思考致候

尚米國代理大使「サムマリン」氏ハ小官ニ語り大島公使ノ会见談ナルモノハ新聞記者ノ為甚シク彩ラレタル様思ハル、同公使ノ平素細心寡言ナルヲ知ル余ハ決シテ布哇辺ニ於テ斯ル意見ヲ發表セラレサリシヲ確信スト申候
右及報告候 敬具

四一七 十一月二十日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国「ヴィヤ」ノ副将「アンヘレス」將軍捕虜トナリタル件

政公信第二四五号 (大正九年一月七日接受)

大正八年十一月二十日

在墨臨時代理公使 伊藤 敬一(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

嘗テハ故「ディアス」大統領時代ニ於テ陸軍士官学校ニ砲術教官タリ又同士官学校長タリ後ニ「カランサ」「ヴィヤ」ト合シテ「ヴェルタ」ヲ没落セシメ「カランサ」ト「ヴィヤ」ト分裂シテ敵対スルニ至リシ後モ「ヴィヤ」軍ノ智囊

走シ叛逆罪ヲ犯シタル罪状ノ下ニ死刑ヲ宣告セラレ本月二十六日午前六時銃殺セラレ候
右政公信第二四五号ノ追加トシテ及報告候 敬具

四一九 十二月三十日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国「オアハカ」州叛徒首領降伏ノ件

政公信第二九〇号 (大正九年一月九日接受)

大正八年十二月三十日

在墨臨時代理公使 伊藤 敬一(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

過去四年間墨国「オアハカ」州ニ於テ反旗ヲ翻シ最近迄手兵二千ヲ以テ政府ニ反抗シ独立君主ノ如ク見ラレシ *Lienciado Guillermo Meixner* ハ本月下旬無条件ニテ「カランサ」軍ニ降服致候、由来「オアハカ」州ハ故「ディアス」將軍時代ヨリ難治ノ州トセラレ中央政府ノ威力及ハス殆ト独立国ノ觀アリシ地方ナルカ「パブロ、ゴンサーレス」將軍カ南方討伐軍司令官トナリシ以来銳意其平定ニ従ヒ嚮ニハ「サパタ」ヲ戦死セシメ今回前記「メイフェロ」ノ降服ヲ見ルニ至リ「サパタ」ヲ計略ニ陥レ殲シタル將校ニハ五万「ペソ」ヲ賞与シタルカ今回ノ降服ニ対シテハ

トシテ北墨「チウアウア」州及「ヅランゴ」州等ニ転戦シ時ニ或ハ米國ニ潛入シテ同志ト交通シ現政府ニ反スル一大団結ヲ画策シツアリト称セラレシ *Ex-General Felipe Angeles* ハ本月十五日午後四時「チウアウア」州「イダル」郡「バエサ」町 (*Balleza, Hidalgo*) 附近ニ於テ *Olivos* 原野義勇隊長ノ為ニ捕虜トナリ近々「チウアウア」市ニ於テ軍法會議ニ附セラルヘシト云フ (或ハ銃殺サレタリトノ噂モアリ其真否判然セス)
右及報告候 敬具

四一八 十一月二十七日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国「ヴィヤ」ノ副将「アンヘレス」將軍銃殺ノ件

殺ノ件

政公信第二五五号 (大正九年一月七日接受)

大正八年十一月二十七日

在墨臨時代理公使 伊藤 敬一(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本月十五日政府ノ為捕虜トナリタル *Ex-General Angeles* ハ「チウアウア」市ニ於テ軍法會議ニ付セラレ軍隊ヨリ脱

三万「ペソ」ヲ仕払ヒ外遊セシムル条件アリト噂セラルルモ当局者ハ之ヲ打消シ居レリ) タルヲ以テ墨国南部ハ稍平定ノ緒ニ就キタルモノト可申候
右及報告候 敬具

四二〇 十二月三十日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国政府ノ調査ニ依ル国内叛徒ノ数報告ノ件

政公信第二九三号 (大正九年一月九日接受)

大正八年十二月三十日

在墨臨時代理公使 伊藤 敬一(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

政府ノ命ニヨリ数月間叛徒事情ヲ調査セル *General Jesús Rivera* ノ報告ナリトテ当地新聞紙ノ伝フル所ニヨレハ目下叛徒ノ数ハ全墨国ニ亙リ僅々八千人ニ過キス即「マヌエル、ペラーエス」(石油地方面)ハ千五百人、「ヴィヤ」ハ五百人ヲ以テ「チウアウア」「コアウイラ」及「ヅランゴ」州ヲ彷徨、「フェリス、ディアス」ハ千人、「メイフェロ」(最近降服セリ)ハ二千ヲ有スルニ過キス其他各地ニ散在スル賊徒二三千人數フヘシトノコトナリ
右及報告候 敬具